

【学会見聞録】

30th Anniversary Spring International Conference of the Korean Society for Gerontology and 19th Korea-Japan Gerontologist Joint Symposium

多田 敬典

国立長寿医療研究センター

6月27、28日にソウル延世大学のBaekyang Nuri Grand Ballroomで開催された30th Anniversary Spring International Conference of the Korean Society for Gerontology and 19th Korea-Japan Gerontologist Joint Symposiumに参加させていただきました。シンポジウム会場の延世大学は100年以上の古い歴史を持ち、これまであらゆる分野の第一線で活躍する人材を多く輩出し続けてきた、韓国で最も伝統ある名門大学です。初めて訪れた延世大学でしたが、緑豊かな美しいキャンパスと近代的な校舎との見事な調和に大変心を奪われました。また大学キャンパスのある学生街シンチョンは、若者に人気の店舗が多く立ち並ぶエリアであり、とても活気にあふれ、賑わっている印象でした。

今回の日韓合同シンポジウムには、日本から下川功先生（長崎大学）、丸山光生先生、清水孝彦先生（国立長寿医療研究センター）、石井恭正先生、宮沢正樹先生（東

海大学）、柿澤昌先生（京都大学）、藤田泰典先生（東京都健康長寿医療センター）、小林正樹先生（東京理科大学）、水之江雄平先生（筑波大学）と私の10名が参加し、研究発表・交流を行ってきました。また日本、韓国の研究者のみならずシンガポール、台湾、中国などアジア各国の老化研究者が一同に集まり、毎日活発な議論が交わされました。シンポジウム前日には、盛大なレセプションパーティーが開かれ、韓国の伝統的な料理が振る舞われるなど、開催前から研究者同士の盛んな交流が行われました。

シンポジウムでは、9セッション合計25題の口頭発表と多くのポスター発表がありました。線虫、ショウジョウバエ、マウスからヒトまであらゆる動物種を対象とした老化研究の発表がなされ、また内容も筋肉、骨、腫瘍、代謝・栄養、免疫、神経など多様な研究発表であり、分野の垣根を超えた横断的な老化研究の先端情報を収集することができました。さらに special presidential lecture として30年間の韓国老化研究のこれまでと将来への展望について Dr. Sang Chul Park (Chonnam National University) による紹介があり、韓国の老化研究発展の経緯について詳しく話を聞くことができる又と無い機会となりました。

Keynote speaker lecture では、初日に Dr. Jang-Soo Chun (GIST) の講演があり、“The CH25H-CYP7B1-ROR α axis of cholesterol metabolism regulates osteoarthritis.” のタイトルで、代謝異常と骨関節疾患との関連性を示す大変興味深い発表がなされました。2日目には、Dr. Brian Kennedy (National University Singapore) が “Targeting Human Aging - Can We

Extend Healthspan” のタイトルで、ヒトの健康寿命延伸につながる senolytic drug の可能性について講演があり、インパクトのある研究内容に会場は大変盛り上がりを見せていました。

最終日のシンポジウムの後には、The Korean Society for Gerontology の In Kwon Chung 理事長の主催による大規模な懇親会が行われました。（写真はお店の前で



連絡先：多田敬典

〒474-8511 愛知県大府市森岡町七丁目430番地

TEL: 0562-44-5651 (内線 5052)

FAX: 0562-87-1333

E-mail: tada@ncgg.go.jp

の集合写真、学生も含めとても多くの研究者が参加しました。)なおシンポジウム後の研究者同士の親睦会では、同じマッコリバーに3日連続で通い続けるなど、とても印象深いお店に出会うことができました。お店のメニューはハングル語表記のものしかなく、初日は全く理解できませんでしたが、現地のお客さんの注文を真似たり、翻訳アプリを試してみたりするなど様々なトライアンドエラーの末、最終日にはハングル語での注文も可能になり、大きな成長を遂げました。試行錯誤を繰り返しての現地交流ではありましたが、参加者の先生方と悪戦

苦闘をしながら韓国文化に溶け込んでいったことは、とても楽しい思い出となりました。(3日間毎日通い続けたマッコリバーの店長とも仲良くなり、最後は皆で写真を撮るまでに至りました。)

韓国老化学会の歓迎はとても温かく、是非また機会があれば参加したいシンポジウムです。最後に3日間ともにシンポジウムとマッコリバーをご一緒させていただいた先生方、また今回このような研究発表の機会を与えてくださった日本基礎老化学会に厚く御礼申し上げます。

